

平成22年度本部研修

4月からのマスターズ研修は淵野辺のスコーレ会館の研修室で開催されます。上半期は下掲の日程・要領で「心身開発コース」と「人生学コース」の月2回の開催となります。

心身開発コース	人生学コース
4月4日(日)	4月18日(日)
5月9日(日)	5月16日(日)
6月12日(土)・13日(日)：宿泊研修	
7月4日(日)	7月17日(土)
8月1日(日)	8月22日(日)
9月5日(日)	9月12日(日)

受講料は「心身開発コース」「人生学コース」それぞれに5,000円(上半期)ですが、「心身開発コース」と「人生学コース」のダブル受講は7,000円(上半期)となります。

体験参加も受け入れておりますので是非ご参加下さい。体験参加は無料です。

6月はマスターズ総会を兼ねた「箱根湯本ホテル」での宿泊研修となります。

7月の人生学コースは土曜日に実施、一般公開の「生きがい講座」として開催します。

心身開発トレーニングコース (10:00 ~ 12:30)
 <リラクゼーション禅> 小川本部長
 <ボイストレーニング> 小川本部長
 藤田・柴原各委員(トレーナー)
 <ボイストレーニング(朗読練習)> 北澤委員
 トレーニング後、昼食懇談会(500円)を開催します。

人生学コース (10:00 ~ 12:00)
 第一部【60分】
 <実践体験の事例発表> 講師養成講座メンバー
 第二部【50分】
 <会長講話&質疑応答> 永池会長・小川本部長

当面の行事予定

- 4月4日 「心身開発講座」(スコーレ会館3階)
- 4月18日 「人生学講座」(スコーレ会館ホール)
- 5月9日 「心身開発講座」(スコーレ会館3階)
- 5月16日 「人生学講座」(スコーレ会館ホール)
- 5月22日 スコーレ総会(静岡県・伊東)
- 5月下旬 マスターズ通信第38号発行予定
- 6月12日 マスターズ総会&宿泊研修 (箱根湯本)

青 朱 白 玄
 春 夏 秋 冬

最近、車を運転していると気になるのであるが、自家用車、営業車を問わず、駐停車している車の右側で作業する光景をよく見るようになった。

駐車しているので少なくとも車幅相当分の道を塞いでいることになる。にもかかわらずドライバーの乗り降りは別としても、同乗者の後方右側からの乗り降り、しかも時間をかけ、また長時間ドアを開けたままの荷物などの上げ下ろし。極端な例でいうと車内の清掃なども見受けられる。

そのような場所を通過する際、片道一車線の道路であれば対向車にも気を払い、二車線以上であれば右側の車線を走行している車にも注意しながら通り抜けなければならないなど、普段の数倍の神経を使うことになる。不幸にして駐停車の車などに当ててしまえば、誘引はその車にあったとしてもこちらの過失になってしまう。

以前、大半のドライバーは左側で作業していたように気配りがなされていたが、近頃それが少なくなってきたような気がする。ふと「往来しぐさ」「肩引き」「傘かしげ」「七三の道」などの江戸しぐさを思い出した。これらのしぐさには思いやりの心がベースにあり、他人に迷惑をかけるというだけでなく、現代では危機管理にも十分通ずるものがある。江戸しぐさを車の場合だけでなく、なにげなく、さりげなくもっと生活に活かしてもいいのではないかと。(梶田 健二)

編集後記 人間の体には60兆個の細胞があるといわれますが、これらの細胞は新陳代謝を繰り返し、古い細胞は常に新しい細胞と入れ替わっています。そして数ヶ月もすれば、体中の細胞は全てが新しくなるそうです。とすれば、細胞レベルでは、人は数ヶ月で全くの別人になってしまうということで、大変面白い話です。ある学者が、「人間の体は自ら古い細胞を捨て去ることで、新しい細胞を作り出している」と言われました。80~90年という時間を人の体は常に捨てながら、新しく生まれ変わっているのだそうです。さて、ここで目を「体」から「心」に転じてみますと、この「捨てる」というのが何とも難しいことだと気が付かれます。何かを得るといことは、同時に何かを捨てることだと聞きますが、悪癖や感じ方は容易に改まりませんが、スコーレの実践を通じ、少しは偉大な体の仕組みを見習いたいものだと思います。(白石 英樹)

編集：社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
 スコーレ・マスターズ 広報委員会
 発行人：小俣富雄
 〒252-0206 相模原市中央区淵野辺4-37-17
 TEL：042-707-4500
 http://www.schole-masters.org

スコーレ・マスターズ通信

第37号
平成22年3月25日

東海中部地区マスターズ主催の「生きがい講座」は大盛況！ 小俣富雄代表幹事が父親の生き方を語る

小俣代表幹事：「親の影響と心の成長」



2月14日(日)、スコーレ・マスターズ東海中部地区は、第7回「お父さんのための生きがい講座」を開催。初期の頃は、外部講師と永池会長の二人講師のパターンが続

きましたが、昨年からは、前半をマスターズ会員発表30分、後半を会長講話1時間とする新企画の講座となっています。当初は20~30名程度の参加者でしたが、会を重ねるたびに順調に増え、今回は95名の参加者となりました。男性参加者が多数を占める中で、若い夫婦も目立つようになりました。特に、近畿地区マスターズからも3人が参加し、賑やかな講座となりました。常連となった顔ぶれも多く、本講座はすっかり東海中部地区マスターズの定例講座として定着した感があります。

当日は、来賓の浅井武司・岐阜市議会議員が「まだまだ家庭教育に無理解な人が多い、こうした講座は貴重だ、私もスコーレ会員として学習を深めたい」とご挨拶がありました。

第一部では、小俣富雄代表幹事が「親の影響と心

「子供の将来を考えた家族の関わり方」 北関東地区リーダー 川田 昌孝

前号に引き続き、宇都宮市伊東文化幼稚園における川田さんの父親講座を掲載します。



父親母親の存在感を！

戦後、家族制度が崩壊し縦型から横型家庭になりました。父親の権威は低下し、核家族化が進み、地域社会の交流は減り、仕事中心で家庭を振り返る余裕がない父親が増えています。家庭の荒廃を思わせるニュースが連日報道される中、家庭機能の再生が課題となっています。その突破口の一つに「父親が母親とともに家庭教育を担うこと」が大切です。仕事か家庭のどちらではなく、仕事と家庭をバランスよく大切にしていくことは、父親自身がほんの少し意識を変えることで可能です。

朝起きたら挨拶を交わそう

「おはよう！」で始まる朝は気持ちが良いものです。よく学校で校長先生が校門に立って朝の挨拶をするようにしたら荒れていた学校が穏やかになっ

の成長」と題して、自分自身における親の影響度合いを、実例を挙げて説明。さらに、現在の父親としての生き方を語りました。

永池会長：「家庭力を高める」

続いて第二部では、永池会長が「家庭力を高める」と題して講演。家族の中で父親というものは後から誕生したものであり、それが故に子供との距離があり、だからこそ果たすべき役割があるはず。「人間として、こう生きているという姿勢を示し、父親として一位置かせることが求められる」と強調しました。特に「物の豊かさを組み伏せる心の豊かさを持つことが大事だ」との言葉が印象的でした。多くの父親が、随所で頷いていました。



マスターズ生きがい講座は、現在、首都圏と東海中部だけの開催。リーダーの小寺房征さんの「持続的な開催への熱意と牽引力」が、若手会員に波及し、益々充実拡大しています。一方、首都圏地区は7月17日(土)に「生きがい講座」を開催予定。東海中部の熱気を継承し、例年以上の参加を目指しています。

たという話を聞きます。家庭の中でお父さんが率先して家族に挨拶をしてはいかががでしょう。

子供の言葉を大切にしよう

「今日、となりの子がね」「今日休み時間にね」など子供は自分の身の回り起こったことを両親に伝え、同じように喜んだり、悲しんだりして欲しいものなのです。こうした体験の共有が、家族の絆を強める一番の要素です。

子供の長所を把握しよう

親は期待通りにいかない、つい子供の駄目な部分ばかりが目についてしまいがちですが、物事は表裏一体です。子供の長所を沢山探しましょう。子供は親がちゃんと自分の長所を見てくれたことに、大きな安心感と信頼感をもつものです。それは自分に対する自信にもつながります。自分に対する自信を持っている子供は、その自尊心から自らをおとしめることはしないものです。子供が自分を大切にするための第一歩として、親がまず子供の長所を認めてあげることが大切です。

家族で食事を楽しもう

「一家団楽」の言葉が聞かれなくなり最近では「孤食」などと言われ、(次頁へ)

投稿コーナー

自分を変える秘策とは

東海中部地区 鈴木 修三郎

早朝実践の基本は毎朝5分前に座っているということ。もう一つは、週に一度、3分間の演壇をするということにあると思います。細かい立ち居振る舞いと言動もありますが、大きくはその二つでしょう。

演壇が巧みな人は原稿が無くていいでしょうし、そうでない人は書くことを積み重ねて「匠を極める」ということになります。その二つがごく自然のうちに出来るようになったとき、早朝実践の基本の形だけはマスターできたと考えられます。それが出来ないまま応用に走ってもうまくいかないでしょうし、また基本が出来ていても応用がすべてうまくいくとも限りません。

応用がうまくいかないとき、私は基本に立ち返るようにしています。失敗もいいのですが、何度も同じ失敗を繰り返しては進展がありません。そんなとき基本を点検しますと効果があります。

早朝実践に余裕が出来てきたとき、さらに実践のレベルを上げるようにしています。5分前から10分前、さらには15分前に...と。ただし、一つ一つ1分

家族の絆とは？

町田相模ブロック 沢内 哲郎

「やっぱり行くのか」

「うん、でも必ず戻ってくるから」「このまま一緒にいたら一生後悔すると思うから」

こうして妻は4人の子どもを連れて近くのアパートに引っ越すことになった。必ず戻るという言葉を信じ、出来る事はしてあげた。妻が見つめて来たアパートは自分が借り、家電製品も妻が必要な物は一緒に買いに行った。引っ越しは自分のワゴン車で妻と何度も往復した。

今から14年前、私は独立し小さいながら事業を始めた。新築の住宅を購入し、自宅の一階を仕事場に。当初は事業収入など殆ど無く、副業をしながら身を粉にして働いた。新築の洒落た窓にするカーテンすら買えず、毎日が綱渡りの生活だった。

その頃、妻は3人目の子どもを宿していた。育児、家事だけでも大変な時期なのに、妻は私を気遣い、「何とかやるよ」と私を励まし支えてくれた。身重な身体にも関わらず、私の仕事も随分手伝ってくれた。持ち前の明るい人柄である妻は、私にとって欠かす

(前頁より) 子供が一人で食事をすることが増え、これが心身に大きな影を落としつつあります。食事の場は心を開き、打ち解けて話ができる場です。そこで交わされる、何気ないおしゃべりの時間、ほっとする時間が家族の絆を深めるのです。お父

の遅れもない状態になってからあげていきます。ですから、場合によってはいつまでもあげられないという現象も起きてきます。

いつまでたっても5時スレスレの入場では何事があったとき崩れやすいものです。5時の早朝研修にひと朝参加しただけでも成功体験を味わえるのですから、毎朝体験できたらとてつもないことになるのです。そして、会場到着時間を徐々にあげていき、それを一貫して守り抜くとき、その人の身に何か変化がおきることは十分に考えられます。

自分で自分の時間を決め、徹底することにより、毎朝自分との約束を果たせるかどうかシミュレーションが出来ます。特別な事情を除いて1分でも遅れたら遅刻になります。だらだらとやっていると年月だけが無常過ぎることになりかねません。

1分でも妥協しない心構えがほどよい緊張感をもし出し、その緊張感がそのまま一日続くような気がします。一日中続いたその結果、夕刻になり、「明日また、早朝があるから」と危うきに近寄らないようにアンテナが張られます。それを一ヶ月続け、一ヶ月を12回続けますと1年になります。自分との約束を守りきる緊迫した早朝実践が3年ほど続きますと、どことなく何かが変わったような気がし始めるのです。

鈴木修三郎さんは昨年、早朝研修に皆勤されました。おめでとうございます。

事の出来ない心の拠り所であった。

その御蔭で丸二年も経つと事業も軌道に乗り、妻の実家から借りた事業資金も全額返済することが出来た。資金を借りる時、「そんなに甘くはないんだぞ」と私を一喝した義父が、その時は私の仕事振りを褒めてくれた。それがとても嬉しかった。

その後も業績は順調だった。妻は一人っ子だったので、妻のご両親に親孝行をしようとハワイにご招待した。全てが順調に思えた。しかし、今考えれば人生の「まさか」はここに潜んでいたのかも知れない。

いつしか私はお山の大将になっていた。一方、それとは裏腹に、妻は自営業の妻という制約と束縛の中で、やりきれない不満を抱えていた。妻には周りの友人とゆっくり話が出来た自由が無かった。それなのに私は自分だけ趣味に興じ、我慢に耐える妻を労う事すら忘れていた。そんな夫の最終章がそこまで忍び寄っている事すら知らずに。

一人になって6年経つ。現在、マスターズで人生を学んでいる。その学びを生かし、昨年、それまで沈んでいた自分を奮起させようと新たに事業所を増やした。社員や子ども達には決して同じ思いをさせまいと謙虚に学ぶ姿勢を大切にしている。

さんが多忙であればあるほど、意図的に一緒におしゃべりの時間を作り出しましょう。

生命の大切さを教えよう

命の根を大切に、手を合わせる対象を持ちたいものです。(完)

連載

朝野球部とバイク事故の少年

北海道地区 中澤 利治

「朝野球部」を結成



T市の清掃業務を担当させていただきましたが、当時の職場は指導員・運転手・作業員の全員が男性でした。この仕事を事故もなく安全に続けていくためには、特に若い職員の健康管理について、一番気を付けていました。ふと思いついた元々の原点は、父が「早寝・早起きは三文の徳」を実践していたことでした。これを職場で「朝野球部」作りとして、取り組もうと決めて、昼休み時間を利用して話を進め、まずAチームを結成することができました。計画にそって早朝トレーニングを行ない、T新聞社主催の第1回朝野球大会に参加をしました。3年後にはBチームも結成して、同大会に15年間連続出場することができました。

さらに、日曜日の一日を利用してM市との野球の親善試合を行ないました。審判等の手伝いは、ボランティアで要請します。試合終了後は、双方で持ち寄って懇親会を行ないます。双方の市の思い出話等で、時間もかけ足で過ぎて行き、次回会うことを楽しみに名残惜しみながら終了します。振り返ってみますと、各職員の風邪等での欠勤が減少していました。さらに計画的に業務が実施できることにより、よりよい市民サービスが実行できたり、職場内が明るくなり、ありがたく思いました。各自の車通勤での交通事故も少なくなり、早朝野球のトレーニングが、大きな力になっている事に感謝であります。スコールにおいて永池会長が指導されている早朝研修の大きな学びを、さらに深く感じさせていただきました。

バイクの少年の接触事故

毎朝の点呼を行ない、全職員に要点事項を伝え、その日の天候状況も含めて話をして終了します。その後全員で各担当車両の始業前点検を行ない、各地域へ向け出発して行きます。昼の時間には各担当者より報告があります。各車の終了時間が平均する様に、午後の配車の調整が必要となりますが、1組、1組の職員の明るい笑顔が一番の楽しみです。

ある日の午後、0号車がA地区へ向って行く途中で、交通信号が青になったので発進して徐

行で交差点を通りぬけようとした所、前方20Mくらいの左側住宅街寄りの歩道から、50CCのバイクに乗った少年が急に飛び出して来ました。当方は急ブレーキをかけて止まったのですが、バイクは車の左側フロント部及び左バンパー部へ接触してしまいました。バイクは転倒しましたが、幸いにも少年の体には負傷もなく無事でした。本人の話を知っている所へ、警察のミニパトカーが来たのですが、警官の話によると、T町内の住宅街で少年のバイクを見つけて、停止をさせようとしたところ、歩道にそのままバイクで乗り入れて逃走したとの事です。

少年の両親の事情

事故全体の状況がわかりましたので、0号車の運転手はA地区へ出発させて、その後の処理にあたりました。少年の話では、K高校の2年生で、サッカー部のキャプテンをしているとのことでした。両親ともに連絡がとれなかったので、現場まで来てもらい、状況を説明した後、清掃センターの事務所へ移動して両親の話を聞きました。

少年は中学1年生から3年生の夏頃まで、毎朝、新聞の配達をしながら部活動のサッカーもしていたとのこと。担任の先生から、進学高校へ入学できる学力があると云われていた頃に、両親の都合で夫婦別居したとのことでした。少年はその頃から新聞配達もやめてくれたと話を聞きましたので、日を改めて、もう一度両親に来てもらうことにしました。

親子3人で新たな生活

少年が少しで生活の助けになればと、新聞配達を続けた事、その純真な心を、父親、母親の身勝手に大事な息子さんのやる気をふみにじった事をどう思っているのか、両親からもう一度、じっくりと聞かせてもらったところ、父親からは「自分勝手に申し訳ありません。今後心を新たに、夫婦でよく話し合っ、親子3人で生活をしていきます」との話がありました。

私自身も子供を持つ親として、この両親と約束をし、少年の今後の事も含めて、両親も心を改め、責任を持って他人に迷惑をかけないように家族で努力しますとの話を警察署の担当の方に伝えました。また、上司と協議した上で、市としてはこの度は事故扱いをしない旨、担当警察官をお願いいたしました。警察の方でも、被害者側からこのような話があるのは、初めてのケースとのことでしたが、少年のことを考えての事と受けとめ、了解していただきました。私はこの少年が立ち直って行くことを信じながら、心あたたまる思いでした。(完)